



L1 Pro32 ポータブルラインアレイ

取扱説明書

安全上の留意項目および使用方法をよく読み、いつでも参 照できるように保管してください。

安全上の重要な注意事項



Bose Corporation hereby declares that this product is in compliance with the essential requirements and other relevant association. other applicable EU directive requirements. The complete declaration of conformity can be found at: www.Bose.com/compliance.



この製品は、すべての適用される電磁両立規則2016およびその しの製品は、すべての過用される英国の規制に準拠しています。完全な適合宣言書については、次のサイトを参照してください。

■ □□□□□ www.Bose.com/compliance.

Bose Corporationはここに、この製品が無線機器規則2017の必須要 件およびその他すべての適用される英国の規制に準拠している ことを宣言します。完全な適合宣言書については、次のサイト を参照してください。 www.Bose.com/compliance.

- このガイドをよくお読みください。
- 2. 必要な時にご覧になれるよう、本書を保管してください。
- すべての注意事項に留意してください。 3.
- すべての指示に従ってください。 4.
- この製品を水の近くで使用しないでください。 5.
- 6. 清掃の際は乾いた布を使用してください。
- 通気孔は塞がないでください。製造元の指示に従って設置してくだ 7. さい。
- ラジエータ、暖房送風口、ストーブ、その他の熱を発する装置(アン 8. プを含む)の近くには設置しないでください。
- 極性プラグを使用する場合、極性プラグや接地極付きプラグの安全機 能を損なうような使い方はしないでください。極性プラグには2つの 端子があり、片方の端子がもう一方の端子よりも幅が広くなっています。また、接地極付きプラグには2つの端子に加え、接地用のアース棒が付いています。を性プラグの広い方の端子および接地極付きプラ グのアース棒は、お客様の安全を守る機能を果たします。製品に付属 のプラグがお使いのコンセントに合わない場合は、電気工事業者など にご相談ください。
- 電源コードが踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。 特に電源プラグやテーブルタップ、機器と電源コードの接続部などに はご注意ください。
- 必ず製造元より指定された付属品、あるいはアクセサリーのみをご使 用ください。



メーカーが指定する、または製品と一緒に購入されたカート、スタンド、三脚、ブラケット、または台のみをご使用ください。 カートを使用する場合、製品の載ったカートを移動する際に は転倒による負傷が起きないよう十分注意してください。

- 13. 雷雨時や長期間使用しない場合は、電源プラグを抜いてください。
- 修理が必要な際には、カスタマーサービスにお問い合わせください。 製品に何らかの損傷が生じた場合、例えば電源コードやプラグの損傷、 液体の侵入や内部への異物の落下、雨や水蒸気との接触、動作の異常、 製品本体の落下などの際には、直ちに電源プラグを抜き、修理をご依 頼ください。

警告/注意



この表示は、製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の 原因となる可能性があることをお客様に注意喚起するものです。



この記号は、このガイドに製品の取り扱いとメンテナンスに関 する重要な項目が記載されていることを示します。



のどに詰まりやすい小さな部品が含まれています。3歳未満のお 子様には適していません。



この製品には磁性材料が含まれています。体内に埋め込まれて いる医療機器への影響については、医師にご相談ください。



標高2000mを超える高地での使用には適していません。

- 許可なく製品を改造しないでください。
- ・ 車内や船上などで使用しないでください。
- 使用中は、製品を壁のくぼみや締め切ったキャビネットなどの中に 置かないでください。

- ・ 暖炉、ラジエーター、暖房送風口、その他の熱を発する装置(アンプ を含む)の近くにブラケットを取り付けたり、製品を設置したりしな いでください。
- 火気や熱源などの近くで使用しないでください。火の付いたろうそ くなどの火気を製品の上や近くに置かないでください。
- 火災や感電を避けるため、雨の当たる場所や液体のある場所、湿度 の高い場所で製品を使用しないでください。
- ・ 水漏れやしぶきがかかるような場所でこの製品を使用しないでくだ さい。また、花瓶など、液体が入った物品を製品の上や近くに置か ないでください。
- インバータ電源は使用しないでください。
- プラグを主電源コンセントに接続する前にアース接続を行うか、 コンセントに保護アース接続が組み込まれていることを確認してく ださい。
- 万一の事故や故障に備えるために、電源プラグはよく見えて容易に 手が届く位置にあるコンセントに接続してください。
- ケーブルを包んだり巻きつけるときは、コイルの直径が20 cm以上あることを確認してください。これにより、ケーブルの耐用期間にわ たり、内部ワイヤに不要なストレスや損傷を与えることを防止でき ます。
- ・ SubMatch Cable は、以下のボーズ製品のみでの使用を目的としています。 L1 Pro32 \ Sub1 \ Sub2 \
- 2つ以上のSub1/Sub2サブウーファーを接続する場合は、SubMatchケー ブルを使用しないでください。

規制に関する情報

製品の電力状態

本製品は、エネルギー関連製品のエコデザイン要件に関する指令2009/125/ ECおよびエネルギー関連製品およびエネルギー情報のエコデザイン(改 正)(EU離脱)規則2020に基づき、以下の規範または文書に準拠しています。 Regulation (EC) No. 1275/2008、改正版 Regulation (EU) No. 801/2013

	Power Modes		
Required Power State Information	Standby	Networked Standby	
Power consumption in specified power mode, at 230V/50Hz input	≤ 0.5 W	N/A*	
Time after which equipment is automatically switched into mode	4 hours	N/A*	
Power consumption in networked standby if all wired network ports are connected and all wireless network ports are activated, at 230V/50Hz input	N/	Ά*	
Network port deactivation/activation procedures. Deactivating all networks will enable standby mode.	standby mode f connection and c ability to be config	utilize a networked for a Bluetooth® does not have the gured to a network or Ethernet	

	L1 Pro32
	$212.0 \times 35.1 \times 57.3 \text{ cm} $ (83.5 × 13.8 × 22.5 in)
Net Weight	13.1 kg (28.9 lb)
Input Rating	100-240 VAC, 5 A, 50/60 Hz
Initial turn on inrush current	15.3 A at 120 V; 29.0 A at 230 V
Inrush current after AC mains interruption of 5 s	1.2 A at 120 V; 26.5 A at 230 V

This equipment should be installed and operated with a minimum distance of 20 cm between radiator and your body.

The product label is located on the bottom of the product.

Model: 431389L32. The CMIIT ID is located on the bottom of the product.

CAN ICES-3(B)/NMB-3(B)

Information About Products That Generate Electrical Noise (FCC Compliance Notice for US) NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital

device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Changes or modifications not expressly approved by Bose Corporation could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with part 15 of the FCC Rules and with ISED Canada's license-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For Europe:

Frequency band of operation 2400 to 2483.5 MHz.

Maximum transmit power less than 20 dBm EIRP.

Maximum transmit power is below regulatory limits such that SAR testing is not necessary and exempt per applicable regulations.



This symbol means the product must not be discarded as household waste, and should be delivered to an appropriate collection facility for recycling. Proper disposal and recycling helps protect natural resources, human health, and the environment. For more information on disposal and recycling of this product, contact your local municipality, disposal service, or the shop where you bought this product.

Management Regulation for Low-power Radio-frequency Devices

Article XII

According to "Management Regulation for Low-power Radio-frequency Devices", without permission by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power, or alter original characteristics, as well as performance, to an approved low power radio-frequency device.

Article XIV

The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere with legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved. The said legal communications means radio communications in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

有害/危険物質または成分の名称および含有に関する情報						
有害/危険物質および成分						
各部の 名称	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミ ウム (Cd)	六価ク ロム (CR (VI))	ポリ臭化ビ フェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニ ルエーテル (PBDE)
基板	Χ	0	0	0	0	0
金属部分	χ	0	0	0	0	0
プラス チック 部分	0	0	0	0	0	0
スピー カー	χ	0	0	0	0	0
ケーブル	χ	0	0	0	0	0
この表は、SJ/T 11364の規格に沿うように作成されています。						

この表は、SJ/T11364の規格に沿うように作成されています。 0:該当部分のすべての素材に含まれる有害/危険物質 がGB/T26572の制限要件を下回っていることを示します。

X: このパーツに使用されている1種類以上の均質物質 に含まれている当該有毒/有害物質が、GB/T 26572の 制限要件を上回っていることを示します。



機器名: L1 Pro32、型式: 431389L32						
	制限される物質および化学記号					
ユニット	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミ ウム (Cd)	六価ク ロム (Cr+6)	ポリ臭化ビ フェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニ ルエーテル (PBDE)
基板	-	0	0	0	0	0
金属部分	-	0	0	0	0	0
プラス チック 部分	0	0	0	0	0	0
スピー カー	-	0	0	0	0	0
ケーブル	-	0	0	0	0	0

注1:「○」は制限物質の含有率が存在の基準値の比率を超過していないことを示します。

注2:「-」は制限物質が除外の対象であることを示します。



製造日:シリアル番号の8桁目の数字は製造年を表します。「O」は2010年または2020年です。

輸入元: Bose Electronics (Shanghai) Company Limited, Level 6, Tower D, No. 2337 Gudai Rd. Minhang District, Shanghai 201100 | Bose Products B.V., Gorslaan 60, 1441 RG Purmerend, The Netherlands | Bose de México S. de R.L. de C.V., Avenida Prado Sur #150, Piso 2, Interior 222 y 223, Colonia Lomas de Chapultepec V Sección, Miguel Hidalgo, Ciudad de México, C.P. 11000 電 話 番 号: +5255 (5202) 3545 | Bose Limited (H.K.), 9F., No. 10, Sec.3, Minsheng E. Road, Zhongshan Dist. Taipei City 10480, 電話番号: +886-2-2514 7676 | Bose Limited, Bose House, Quayside Chatham Maritime, Chatham, Kent, ME4 4QZ, United Kingdom

Bose Corporation Headquarters: 1-877-230-5639

Apple およびApple のロゴは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。App Store はApple Inc.のサービスマークです。

Bluetooth®のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、Bose Corporation はこの商標を使用する許可を受けています。

Google Play はGoogle LLCの商標です。

Wi-Fiは、Wi-Fi Alliance®の登録商標です。

Bose、Bのロゴ、L1、SubMatch、およびToneMatchは、Bose Corporationの商標です。 その他すべての商標は所有権を保持する各社に帰属します。

Bose のプライバシーポリシーは次のサイトをご参照ください: worldwide.Bose.com/privacypolicy

製品保証の詳細はworldwide.Bose.com/Warrantyをご覧ください。

©2024 Bose Corporation.本書のいかなる部分も、書面による事前の許可のない複写、変更、配布、その他の使用は許可されません。

控えとして、製品の情報を以下の欄にご記入ください。

シリアル番号とモデル番号は、製品の底面にある製品ラベルに記載されています。

シリアル番号: _____

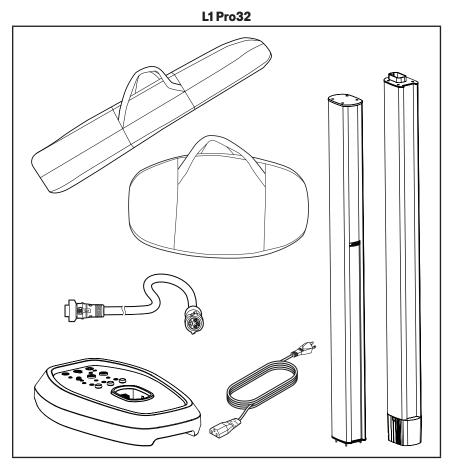
モデル番号: ______

概要	5
同梱物	5
オプションのアクセサリー	
セットアップ	6
接続とコントロール	6
パワースタンドとアレイの組み立て	7
電源およびSub1 / Sub2の接続	8
自動オフ/省電力スタンバイ	8
音源の接続	9
チャンネル1および 2 コントロール	9
チャンネル3コントロール	10
Bose アプリの操作	10
その他の調整	11
チャンネルミュート	11
ファンタム電源	11
システム EQ	
セットアップのシナリオ	
ミュージシャン(サブウーファー併用)	
モバイル機器を使用するミュージシャン(サブウーファー併用)	13
バンド(サブウーファー併用)	
T8Sミキサーを使用するミュージシャン(サブウーファー併用)	
ミュージシャン(アナログ接続でサブウーファー併用)	
T4Sミキサーを使用するミュージシャン(ステレオ、2台のサブウーファー併用)	
DJ(ステレオ、 2 台のサブウーファー併用)	
DJ(モノ、 2 台のサブウーファー併用)	
DJ(モノ、 2 台のカーディオイドサブウーファー併用)	
DJ(ステレオ、 4 台のサブウーファー併用)	
ミュージシャン(デュアルモノ、 2 台のサブウーファー併用)	
S1 Pro をモニターとして使用するミュージシャン(サブウーファー併用)	21
お手入れについて	22
L1 Pro のお手入れについて	22
トラブルシューティング	22

GLOBAL.BOSE.COM 概要

概要

同梱物



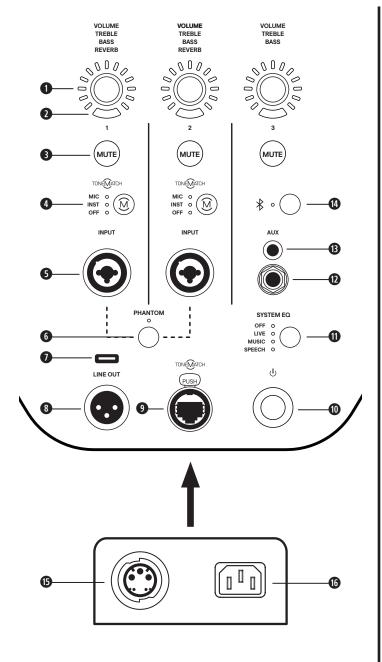
オプションのアクセサリー

- L1 Pro32アレイ&パワースタンドバッグ
- SubMatchケーブル

L1 Proのアクセサリーについての詳細は、GLOBAL.BOSE.COMをご覧ください。

セットアップ

接続とコントロール



- チャンネルパラメーターコントロール: チャンネルごとに音量、トレブル、ベース、またはリバーブを調整します。コントロールを押すとパラメーターを切り替えられ、回すと選択したパラメーターのレベルを調整できます。
- ② シグナル / クリップインジケーター: 信号を受けている場合はLEDが緑に点灯し、信号がクリップしたり、リミッターが適用されると赤く点灯します。チャンネルまたは信号の音量を下げることで、信号のクリッピングやリミッターの適用を防ぐことができます。
- **3 チャンネルミュート**: 個別のチャンネルの出力をミュートします。ボタンを押すとチャンネルをミュートできます。ミュート中はボタンが白く点灯します。
- **④チャンネル**ToneMatch**ボタン**: 個別のチャンネルのToneMatchプリセットを選択します。マイクには「**MIC**」を使用し、アコースティックギターには「**INST**」を使用します。選択中は対応するLEDが白く点灯します。
- **⑤ チャンネル入力**: マイク(XLR)、楽器(TS、アンバランス)、またはラインレベル(TRS、バランス)のケーブルを接続するアナログ入力です。
- **6 ファンタム電源**: ボタンを押すと、チャンネル1と2に 48 V電源が適用されます。ファンタム電源が適用されると、LEDが白く点灯します。
- USBポート: ボーズのサービスで使用するUSB-Cコネクターです。
 注: このポートはThunderbolt 3ケーブルには対応していません。
- **③ XLR ライン出力:** XLR ケーブルを使用して、Sub1 / Sub2、またはその他のベースモジュールにラインレベル出力を接続します。
- **⑨** ToneMatch **ポート**: ToneMatch ケーブルを使用して、お使いのL1 Proを T4S / T8S ToneMatch ミキサーに接続します。



注意: コンピューターや電話回線には接続しないでください。

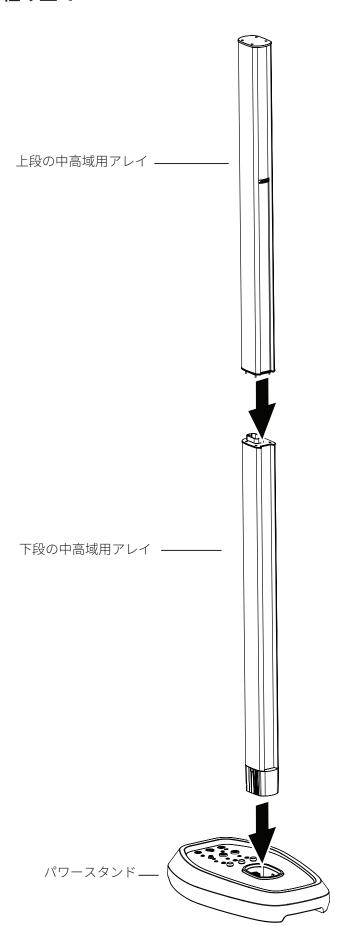
- **⑩ スタンバイボタン:** ボタンを押して、L1 Proの電源をオンにできます。L1 Proがオンになっていると、LEDが白く点灯します。
- システムEQ: ボタンを押して、用途に適したマスターEQをスクロールして選択できます。選択中は対応するLEDが白く点灯します。
- TRS ライン入力: 6.4 mm (¼インチ) TRSケーブルを使用して、ラインレベルの音源を接続します。
- **3** AUX **ライン入力**: 3.5 mm(¼インチ)TRSケーブルを使用して、ラインレベルの音源を接続します。
- Bluetooth®ペアリングボタン: Bluetooth 対応機器とのペアリングをセットアップします。L1 Proが検出可能になるとLEDが青く点滅し、機器がペアリングされ、ストリーミング可能な状態になると白く点灯します。
- **⑤** SubMatch **出力**: SubMatch ケーブルを使用して、Sub1 / Sub2ベースモジュールを接続します。
- **⑯ 電源入力: IEC**電源コードを接続します。

パワースタンドとアレイの組み立て

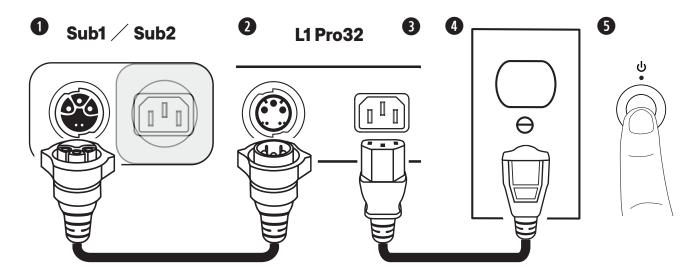
パワースタンドを電源に接続する前に、上段の中高域用アレイと下段の中高域用アレイを使用してL1 Pro32を組み立てます。

- 1. 下段のアレイをパワースタンド に差し込みます。
- 2. 上段のアレイを下段のアレイに 差し込みます。

L1 Pro32 は、上段のアレイなしで使用することもできます。この構成は、会場の天井にL1 Pro32を設置できる高さがない場合に有効です。



電源およびSub1 / Sub2の接続



- SubMatchケーブルを、Sub1 / Sub2のSubMatch入力に接続します。
- 2. SubMatch ケーブルのもう一方を、L1 Pro32の SubMatch 出力に接続します。
- 3. 電源コードをL1 Pro32の**電源入力**に差し込みます。
- 4. 電源コードのもう一方を、電源コンセントに差し込みます。

注: ソースを接続するまでは、L1 Proの電源をオンにしないでください。9ページの「音源の接続」を参照してください。

5. **スタンバイボタン**を押します。L1 Proがオンになっていると、LEDが白く点灯します。

注: スタンバイボタンを 10 秒間長押しすると、L1 Pro を工場出荷時の状態にリセットできます。

接続したすべてのSub1 / Sub2のスタンバイボタンを押します。Sub1 / Sub2のセットアップについての詳細は、GLOBAL.BOSE.COMでSub1 / Sub2の取扱説明書をご覧ください。

注: L1 Pro32に2台のベースモジュールが接続されている場合は、最初にL1 Pro32に直接接続されているベースモジュールの電源をオンにし、その後で2台目のベースモジュールの電源をオンにします。

自動オフ/省電力スタンバイ

4時間以上使用されない場合、電力を節約するため、L1 Pro は自動オフ/省電力スタンバイモードになります。L1 Pro の自動オフ/省電力スタンバイモードを解除するには、スタンバイボタンを押します。L1 Pro32が自動オフ/省電力スタンバイモードになると、SubMatchケーブルで接続されているすべてのSub1 / Sub2の電源が切断されます。接続されているSub1 / Sub2のスタンバイボタンを押して、自動オフ/省電力スタンバイモードを解除できます。

注: 3つのチャンネルパラメーターコントロールすべてを10秒間長押しするか、Bose アプリの「設定」ページから自動オフ/省電力スタンバイモードを解除できます。この手順を繰り返すことで、自動オフ/省電力スタンバイモードを有効化できます。自動オフ/省電力スタンバイモードを解除すると、L1 Pro を使用していないときにも消費電力が多くなります。

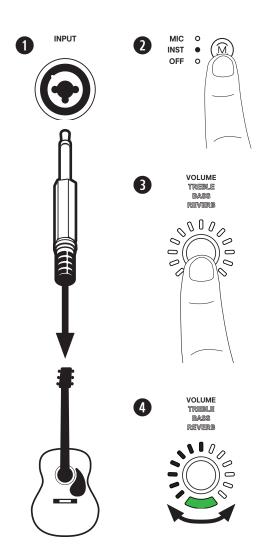
音源の接続

チャンネル1および2コントロール

チャンネル1と2は、マイク、ギター、キーボードなどのあらゆる楽器で使用します。チャンネル入力は幅広い種類の入力に適しており、出力レベルに応じてチャンネルの音量を設定することで、適切なゲインステージ設定によりノイズを最小に抑えることができます。

- 1. 適切なケーブルを使用して、音源を**チャンネル入力**に接続します。
- 2. 選択したいプリセットのLEDが点灯するまでチャンネルToneMatch ボタンを押すことで、ToneMatch プリセットを適用して、マイクや楽器のサウンドを最適化することができます。マイクには「MIC」を使用し、アコースティックギターなどの楽器には「INST」を使用します。プリセットを適用しない場合は、「OFF」を使用します。
 注: ToneMatch ライブラリからカスタムプリセットを選択するには、Bose アプリを使用します。カスタムプリセットを選択すると、対応するLEDが緑に点灯します。
- 3. **チャンネルパラメーターコントロール**を押すと、変更するパラメーターを選択できます。選択されると、パラメーター名が白く点灯します。
- 4. **チャンネルパラメーターコントロール**を回すと、選択したパラメーターのレベルを調整できます。パラメーター LEDが選択したパラメーターのレベルを示します。

注:「Reverb」が選択されているときにコントロールを2秒間長押しすると、リバーブをオフにできます。リバーブがオフにされているときは、「Reverb」が白く点滅します。リバーブのオフを解除するには、「Reverb」が選択されている状態でコントロールを2秒間長押しします。リバーブのオフは、L1 Proの電源がオフになるとリセットされます。



チャンネル3コントロール

チャンネル3は、Bluetooth®対応機器およびラインレベルオーディオ入力で使用します。

Bluetoothペアリング

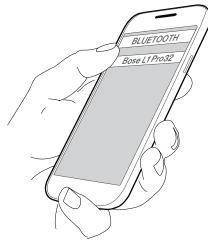
次のステップでは、Bluetooth対応機器を手動で接続してオーディオをストリーミングする方法を説明します。

Bose アプリを使用して、機器のその他のコントロール機能を操作できます。Bose アプリの詳細については、下の「**Bose アプリの操作**」をご覧ください。

- 1. モバイル機器のBluetooth機能をオンにします。
- 2. Bluetoothペアリングボタンを2秒間長押しします。ペアリングの準備ができたら、LEDが青く点滅します。



3. お使いのL1 Proがモバイル機器のデバイスリストに表示されます。デバイスリストからL1 Proを選択します。機器のペアリングが完了したら、LEDが白く点灯します。



注: 使用中にL1 Pro から通知が聞こえる場合があります。これを防ぐには、接続した機器の通知機能を無効にします。 機内モードを有効にすると、通話やメッセージの通知によるオーディオの中断を防ぐことができます。

TRSライン入力

モノラル入力です。6.4 mm(¼インチ)TRSケーブルを使用して、ミキサーや楽器用エフェクターなどのラインレベルの音源を接続します。

AUXライン入力

ステレオ入力です。3.5 mm(¼インチ)TRSケーブルを使用して、モバイル機器やノートPCなどのラインレベルの音源を接続します。

Boseアプリの操作

デバイスの詳細なコントロールやオーディオストリーミング機能を利用するには、Bose アプリをダウンロードしてください。ダウンロードしたら、アプリの指示に従って L1 Pro を接続します。Bose アプリの具体的な使用方法については、アプリ内へルプをご覧ください。





機能

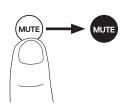
- ・ チャンネルの音量の調節
- チャンネルミキサーのパラメーターの調整
- システムEQの調整
- チャンネルミュートの有効化

- ・ リバーブオフの有効化
- ・ ファンタム電源の有効化
- ToneMatch プリセットライブラリへのアクセス
- シーンの保存

その他の調整

チャンネルミュート

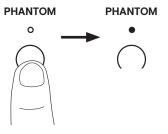
チャンネルミュートを押して、個別のチャンネルのオーディオをミュートできます。チャンネルがミュートされている間、ボタンが白く点灯します。ボタンをもう1回押すと、そのチャンネルのミュートが解除されます。



ファンタム電源

ファンタム電源ボタンを押すと、チャンネル1と2に48 V電源が適用されます。ファンタム電源が適用されると、LEDが白く点灯します。コンデンサーマイクの使用時には、ファンタム電源を適用してください。ボタンをもう1回押すと、ファンタム電源をオフにできます。

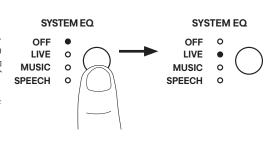
注: ファンタム電源は、XLRケーブルを使用して**チャンネル入力**に接続されたソースのみに適用されます。



システムEQ

選択したいEQのLEDが白に点灯するまで**システムEQ**ボタンを押して、システムEQを選択できます。「OFF」、「LIVE」、「MUSIC」、および「SPEECH」のいずれかを選択できます。L1 Proの電源をオフにし、再度オンにしても、選択したEQが適用されたままになります。

注: システムEQは、パワースタンドとアレイのオーディオのみに適用されます。システムEQは、XLR ライン出力のオーディオには作用しません。



セットアップのシナリオ

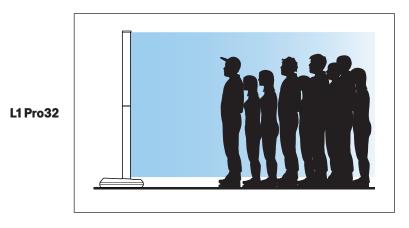
L1 Pro32はフロアまたはステージに設置することができます(7ページの「パワースタンドとアレイの組み立て」を参照してください)。



警告: 機器を不安定な場所に置かないでください。機器が安定した場所に配置されていないと、 危険な状態につながり、けがの原因になることがあります。

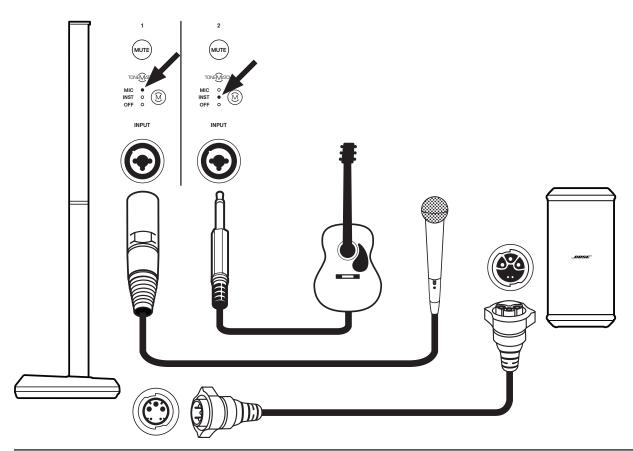


注意: パワースタンドは、**L1 Pro32**の背面/底面の通気口を塞ぐような場所に設置しないでください。砂や草の上に直接設置すると、通気口からごみが入り、**L1 Pro32**が適切に機能しなくなる場合があります。

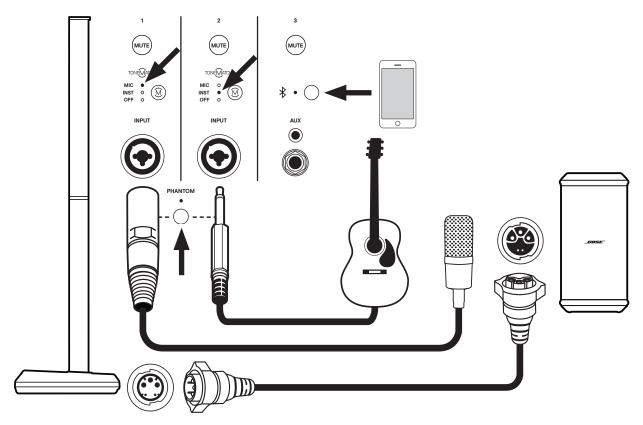


次のすべてのシナリオには、1台以上のSub1/Sub2ベースモジュールが必要になります。Sub1/Sub2の適切な設定については、GLOBAL.BOSE.COMのSub1/Sub2の取扱説明書をご覧ください。

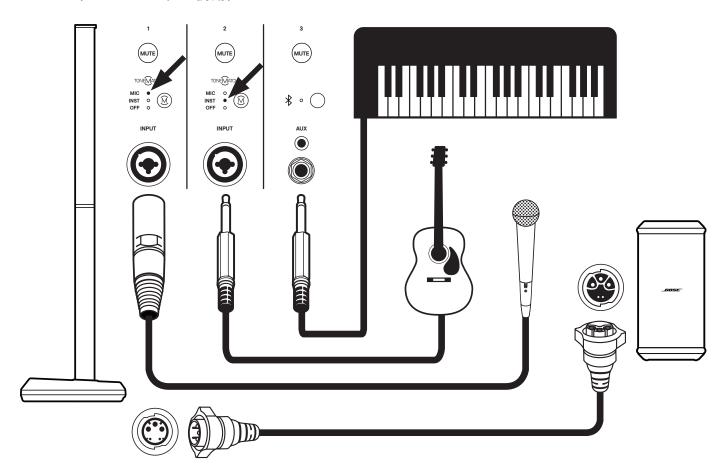
ミュージシャン(サブウーファー併用)



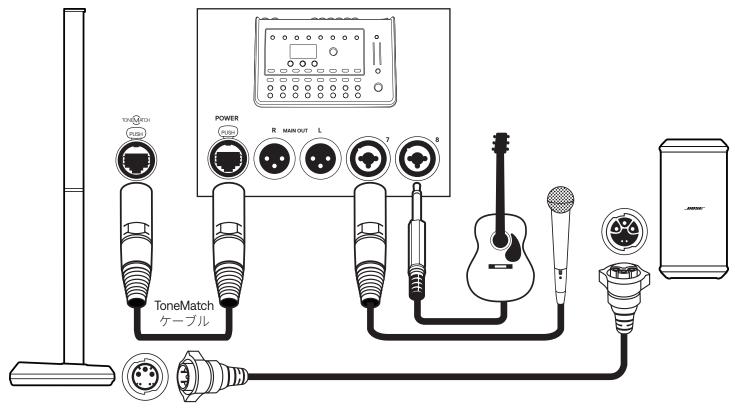
モバイル機器を使用するミュージシャン(サブウーファー併用)



バンド(サブウーファー併用)

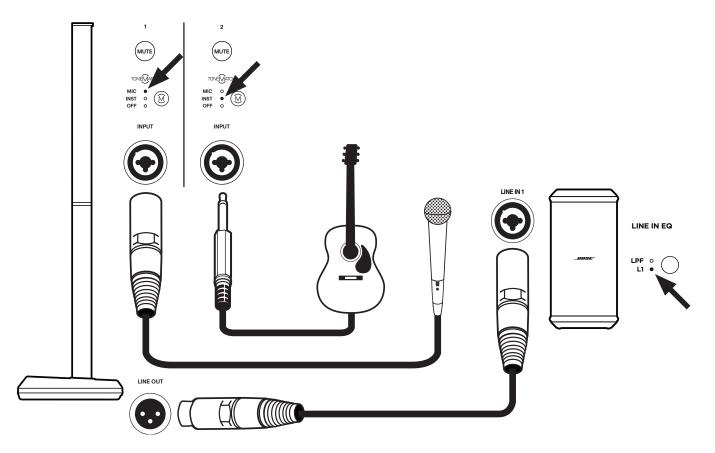


T8Sミキサーを使用するミュージシャン(サブウーファー併用)

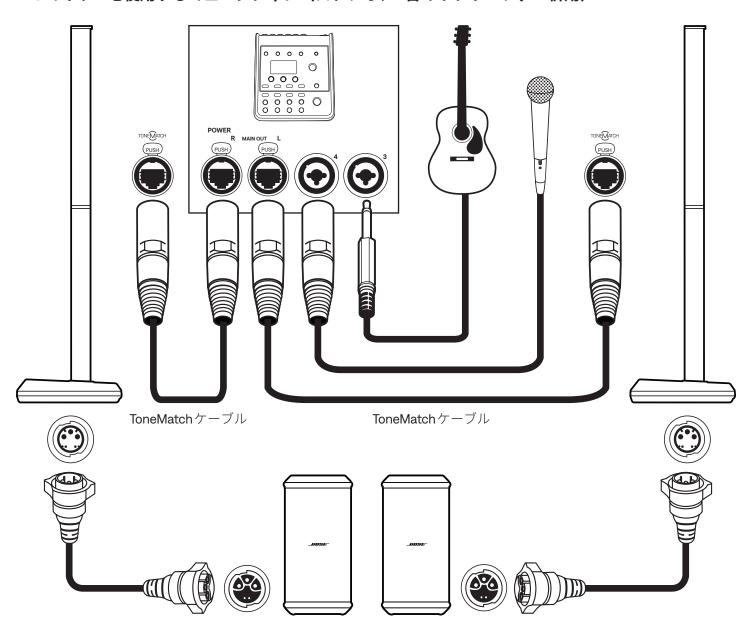


注: T8Sの左チャンネルのオーディオのみが出力されます。

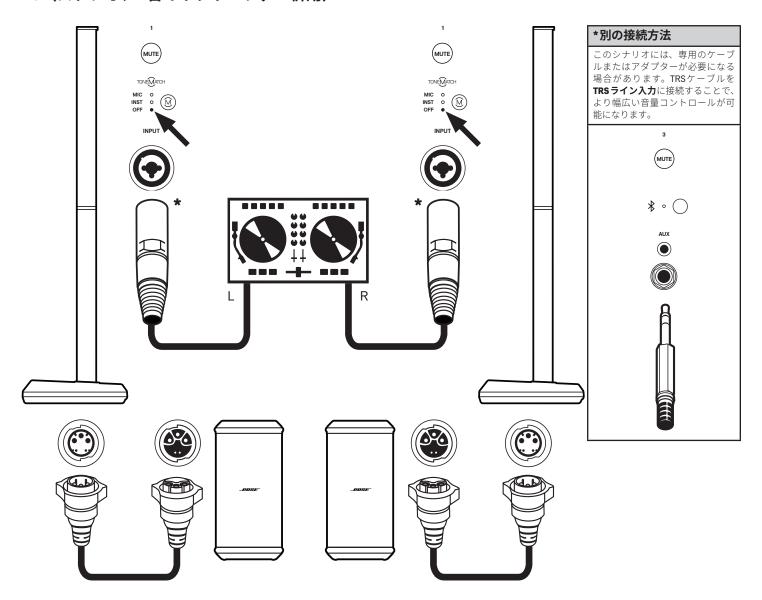
ミュージシャン(アナログ接続でサブウーファー併用)



T4Sミキサーを使用するミュージシャン(ステレオ、2台のサブウーファー併用)



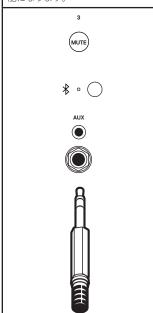
DJ(ステレオ、2台のサブウーファー併用)

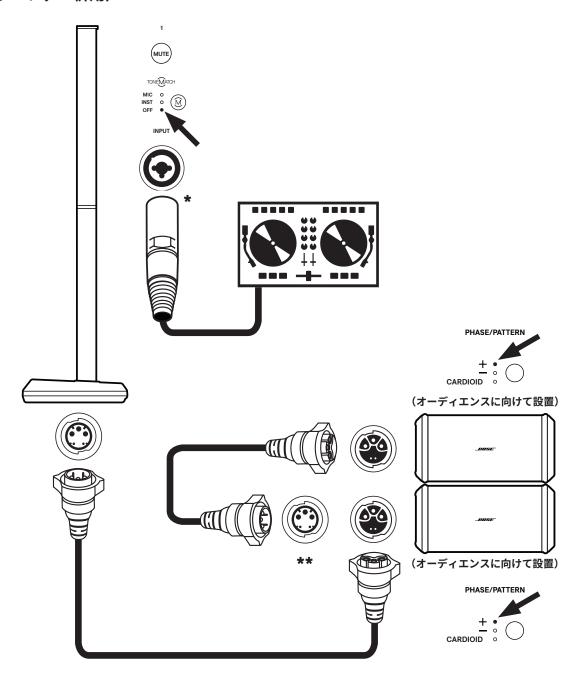


DJ(モノ、2台のサブウーファー併用)

*別の接続方法

このシナリオには、専用のケーブ ルまたはアダプターが必要になる 場合があります。TRSケーブルを TRS ライン入力に接続することで、 より幅広い音量コントロールが可 能になります。





**別の接続方法

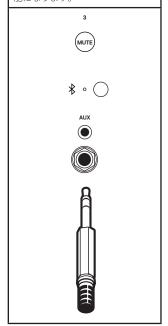
L1 Pro32は、アナログ接続でSub1/Sub2に接続することができます。2台のベースモジュールをアナログ接続で接続することもできます。2台のベースモジュールをアナログ接続で接続する場合は、XLRケーブルを使用して、1台目のベースモジュールの**ライン出力**を2台目のベースモジュールの**ライン出力**に接続します。SubMatchケーブルを使用せずにセットアップされたベースモジュールは、電源に接続する必要があります。

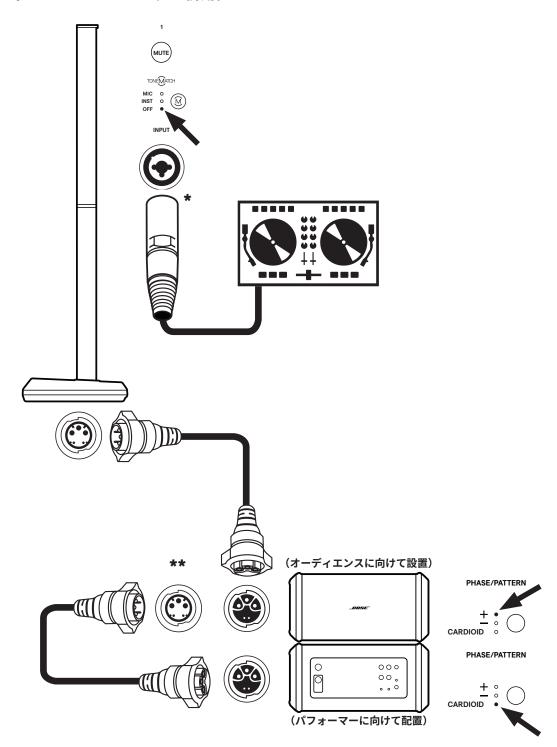


DJ(モノ、2台のカーディオイドサブウーファー併用)

*別の接続方法

このシナリオには、専用のケーブ ルまたはアダプターが必要になる 場合があります。TRSケーブルを TRSライン入力に接続することで、 より幅広い音量コントロールが可 能になります。



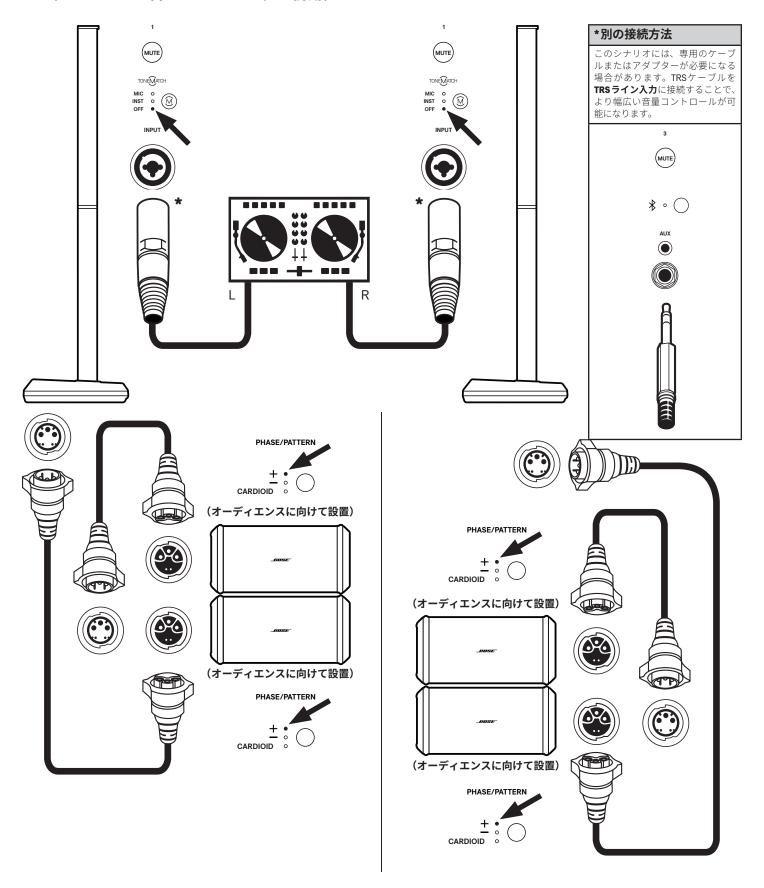


**別の接続方法

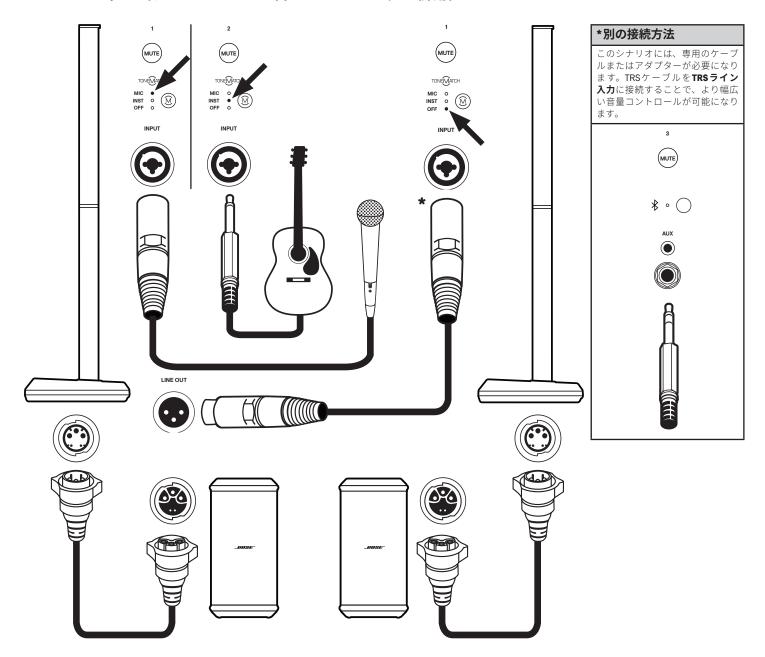
L1 Pro32 は、アナログ接続でSub1/Sub2に接続することができます。2台のベースモジュールをアナログ接続で接続することもできます。2台のベースモジュールをアナログ接続で接続する場合は、XLRケーブルを使用して、1台目のベースモジュールの**ライン出力**た接続します。SubMatchケーブルを使用せずにセットアップされたベースモジュールは、電源に接続する必要があります。



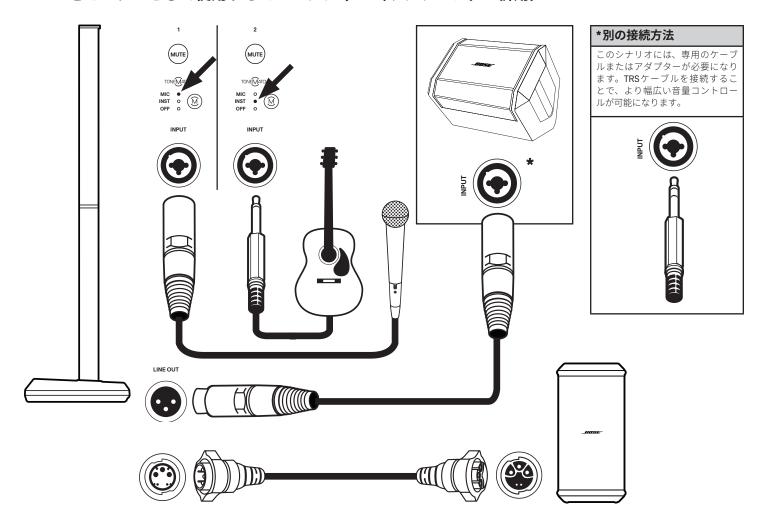
DJ(ステレオ、4台のサブウーファー併用)



ミュージシャン(デュアルモノ、2台のサブウーファー併用)



S1 Proをモニターとして使用するミュージシャン(サブウーファー併用)



お手入れについて GLOBAL.BOSE.COM

お手入れについて

L1 Proのお手入れについて

- ・ お手入れの前に、L1 Pro32 の AC 電源ケーブルをコンセントから抜きます。
- ・ 必ず乾いた柔らかいクロス(布)を使用して、製品本体を拭いてください。必要な場合は、L1 Proのグリルを掃除機で掃除してください。
- 通気口周辺(L1 Pro32の背面/底面)の本体表面をクロスでやさしく拭いて、通気口に付着したごみを取り除きます。 ごみがL1 Pro32の中に入らないように注意してください。
- ・ パワースタンドからアレイを取り外し、アレイの出力コネクター周辺の通気口(パワースタンドの基部)のごみをやさしく取り除きます。ごみがL1 Pro32 の中に入らないように注意してください。



注意: 溶剤、化学薬品、またはアルコール、アンモニア、研磨剤などを含むクリーニング液は使用しないでください。

注意: 製品の近くでスプレーを使用しないでください。また開口部に液体をこぼさないでください。

トラブルシューティング

問題	確認する項目
電源が入らない	・ お使いのACコンセントに電源がきているか確認します。ACコンセントに照明器具や 他の機器を接続して動作するか試してください。ACコンセントテスターをお持ちの 場合は、テスターを使ってコンセントの状態を確認してください。
 音が出ない	L L1 Proの電源が入っていることを確認してください。
13 H 0.0	楽器が チャンネル入力 に接続されていることを確認してください。
	・ お使いのソースの音量が上がっていることを確認してください。
	・ L1 Proの音量が上がっていることを確認してください。
	楽器を他のアンプに接続して、音源が動作していることを確認してください。
	・ チャンネルミュート ボタンがオンになっていないことを確認してください。
スタンバイLEDが赤く点滅 している(温度異常)	・ L1 Proの電源をオフにし、30分待ってから再度電源をオンにしてください。
	・ L1 Proをより涼しい場所に移動させてください。
	・ L1 Proをより通気のよい場所に移動させてください。
スタンバイLEDが赤く点灯 している(システム異常)	・ ボーズカスタマーサービスへお問い合わせください。次のサイトをご参照ください: worldwide.Bose.com/contact
L1 Pro に何も接続されてい ない状態で、小さな雑音や ノイズが聞こえる	・ ACコンセントテスターを使用して、L1 Proが接続されているACコンセントの反転またはオープン(ホット、ニュートラル、またはグラウンド)コンタクトをテストしてください。
	・ 延長コードを使用している場合は、L1 Proをコンセントに直接差し込んでみてください。
楽器またはオーディオソー	・ ソースの音量を下げてください。
スの音が歪む 	・・チャンネルの音量を下げてください。
	・異なるソースまたは楽器で試してみてください。

GLOBAL.BOSE.COM お手入れについて

問題	確認する項目
マイクがフィードバックを	・ チャンネルの音量を下げてください。
起こす	・ マイクの向きを、直接L1 Proの方に向かないように変えてください。
	・ 別のマイクで試してみます。
	・ ステージ上のL1 Proの位置や、ボーカリストの立ち位置を変えてみてください。
	・ L1 Proとマイクの距離を離してください。
	ボーカルのエフェクトプロセッサーを使用している場合は、それがフィードバックの 問題に関係していないか、確認してください。
ペアリングされた Bluetooth®機器がスピー	・ パスコードが必要な機器とペアリングしている場合は、正しい値を入力しているか確認してください。
カーに接続されない	・ ソース機器の <i>Bluetooth®</i> 機能が有効であることを確認してください。
	• Bluetooth機器までの距離が離れすぎている可能性があります。機器をL1 Proに近付けてください。
	• 可能な場合は、近くにある他の <i>Bluetooth</i> 機器をオフにするか、 <i>Bluetooth</i> 機能を無効にします。
	・ ペアリングスピーカーの履歴を消去するか、 <i>Bluetoothペアリングボタン</i> を10秒間長押しして新しい機器とペアリングしてください。L1 Proを <i>Bluetooth</i> 機器から削除します。 <i>Bluetooth</i> 機器をL1 Proと再度ペアリングします。
	スピーカーの電源を切ってから、もう一度オンにして、再度機器をペアリングしてください。
複数のユニットをデイジー チェーン接続するとひどい ハムノイズが発生する	・ デイジーチェーン接続された機器の音量が高すぎる設定になっていないことを確認し てください。



©2024 Bose Corporation. All rights reserved. Framingham, MA 01701-9168 USA GLOBAL.BOSE.COM AM857142 Rev. 03 2024年2月